#### 研究成果報告書 科学研究費助成事業

今和 2 年 5 月 2 7 日現在

機関番号: 34310

研究種目: 基盤研究(B)(一般)

研究期間: 2015~2019

課題番号: 15H03317

研究課題名(和文)投票外参加の日米比較:確率標本によるインターネット調査を用いた因果推論の精緻化

研究課題名(英文)Comparing non-voting political participation between Japan and the US: A causal inference using the Internet survey with a random sample

研究代表者

飯田 健(lida, Takeshi)

同志社大学・法学部・教授

研究者番号:50468873

交付決定額(研究期間全体):(直接経費) 12,700,000円

研究成果の概要(和文):本研究では、第一にサーベイ実験を通じて政治参加の利益の大きさとそれが実現する可能性についての有権者の認識に着目しつつ、投票による政治参加と比較してこれまで解明が進んでこなかった、デモなどの抗議活動といった投票外参加のメカニズムの一端を明らかにした。第二に、従来の登録パネルからの割当標本との比較において、住宅地図による層化無作為二段抽出による確率標本に対するインターネット調 査を実施し知見を蓄積した。

研究成果の学術的意義や社会的意義 第一に、本研究の理論的枠組みは今後デモなどの旧来の投票外参加にとどまらず、SNSにおける抗議運動など新たな種類の投票外参加のメカニズムについてもを応用することが可能である。第二に、本研究期間中にマスコミ各社も確率標本を用いたインターネット調査手法の確立に向けた取り組みを始めたが未だ実用化には至っておら ず、これらの実務家コミュニティで共有された本研究の成果は今後のこの分野の発展に寄与することが期待され

研究成果の概要(英文): Focusing on the perceptions of the interests at stake and of a possibility for them to be realized, this study has revealed a part of the mechanism under which people engage in non-voting political participation in comparison to conventional voting participation. It has also conducted and accumulated knowledge on Internet surveys using a random sample of respondents recruited through an area sampling technique in comparison to conventional Internet surveys with a quota sample of registered respondents.

研究分野: 政治学

キーワード: インターネット調査 投票外参加 調査方法論

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等に ついては、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

## 1.研究開始当初の背景

本研究の目的は、近年注目を集めているものの実証的な研究が十分進んでいるとはいえない、デモなど投票外政治参加ついて方法論的課題を克服しつつ実態を把握し、それがなぜ行われるのか因果メカニズムを解明することにある。投票外参加研究は二つの問題によりこれまで実証研究が十分に進んでこなかった。第一に、投票外参加を説明するのに投票参加と同じ理論が想定されていたため、固有の因果メカニズムが検証されてこなかった。第二に、デモなどの投票外参加は社会的に望ましくないものとの規範の存在により、調査で回答者が正直に答えず実態の把握が難しかった。本研究は、こうした点を克服すべく投票外参加の理論を構築し、確率標本を用いたインターネット調査を日本で初めて実施することでより厳密な因果の検証を目指すものである。

近年、市民が自らの要求を政府に伝えるために、デモなどの投票以外の手段に訴える政治参加のあり方が注目を集めている。こうした投票外参加は以前より学術的関心を集めてきたが、その要因について必ずしも実証的に解明されているとは言えない。その最大の理由は、これらの投票外参加について投票参加と同じ参加メカニズムが想定されてきたことにある。

ところがこうしたアプローチは実は適切ではない。申請者の分析によるとデモを中心とする 直接的行動を行う政治参加と、投票を中心とする間接的行動を行う政治参加とは必ずしも相関 しない。つまり投票など既存の政治的権威を尊重した間接的行動を行う有権者は、デモなど既存 の政治的権威を軽視した直接行動を行わないし、さらにはその逆もまたしかりなのである。これ は投票参加を行う有権者と投票外参加を行う有権者が異なるうえ、それぞれ別のメカニズムが 機能しているということを示唆しており、単に政治参加のコストあるいは難易度の高低によっ てどの政治参加を行うかが決まるという従来の一次元的な段階仮説はそもそも前提自体適切で はない可能性が高い。つまり投票外参加を説明するには別のモデルが必要である。

さらに、投票外参加の研究が近年にいたるまで十分進展していない背景として、投票外参加の 測定が難しいという方法論的課題がある。これはとりわけ日本で顕著な問題であるが、世論調査 において回答者は投票以外の政治参加を社会的望ましくないものとして過小申告する傾向にあ る。つまり例えば実際にはデモに参加している回答者でも、デモに参加することは社会的に望ま しくない、政治的に偏った人物と思われたくないという考えから、世論調査ではデモに参加して いないと回答するのである。これは、調査員を介する通常の調査では、「社会的望ましさ」バイ アスにより投票外参加を正確には測定できないことを示唆する。

そこで有力な調査方法として考えられるのが、調査員を介さないインターネット調査であるが、この手法には標本に代表性が無く正確な統計的推論ができないという重大な欠点が存在する。こうしたことから、投票外参加の研究には「社会的望ましさ」バイアスの問題も解決でき、さらには標本に代表性がある調査手法の開発が求められる。

#### 2 . 研究の目的

本研究では、投票外参加研究にまつわる上述した二つの課題、すなわち投票外参加を説明する独自の理論モデルの構築と実証および、時間的・金銭的コストも低く「社会的望ましさ」バイアスの問題も解決できる標本に代表性がある調査手法の開発に取り組んだ。

第一の課題に関して、明らかにすべきは「なぜ有権者は投票外参加を行う(行わない)のか」という有権者間の横断面的なバリエーションに関する問いおよび、「いつ有権者は投票外参加を行う(行わない)のか」という有権者の行動の時間的なバリエーションに関する問いである。

第二の課題に関して、明らかにすべきは「どのようにしてインターネット調査で有権者全体を母集団とする統計的推論を行うことができるか」という問いである。先述のとおりインターネット調査は標本の代表性以外の点ではわれわれの研究目的に照らして理想的な手法である。この標本の代表性の問題を克服すべく、本研究では従来の非確率標本ではなく確率標本を用いたインターネット調査の手法の実用化に取り組んだ。

#### 3.研究の方法

先に述べた二つの研究目的のうち一つめを達成するために、これまで申請者が研究してきた有権者のリスク態度変数を中心とした理論モデルを構築し、そこで想定された因果効果を従来の方法のみならずサーベイ実験によって検証した。Cをある政治参加のコスト、Pをその政治参加によって意図した結果が達成される主観的確率、Bをその政治参加の意図が達成された際の利益としたとき、政治参加は一般的に PB > Cの不等式が成立した場合に行われる。投票外参加の場合、投票参加の場合と比べて C が大きいことはすでに先行研究でも想定されているとおりであるが、それに加えてここでは PB の値も有権者によって異なるということを想定した。すなわち投票外参加の場合、それによって意図した結果が達成される主観的確率が投票参加と比べて有権者間で大きく異なると考えられる。

このPの大きさを決める要因の一つがリスク態度である。「ギャンブル」を好まないリスク回避的な有権者は不確実性をはらむ PB を低く見積もるため、期待される利益が小さくともより確実な投票による参加を好む。一方、リスク受容的な有権者は不確実性をはらむ PB を高く見積もるため、投票外参加を好むようになると考えられる。

こうした仮説を検証するためにインターネット調査においてサーベイ実験を行った。実験においては、投票参加およびデモへの参加の意向について、それがもたらし得る利害の大きさ(B)

および利益が実現する可能性(P)の実験条件を操作することで、リスク態度をはじめとする様々な属性によって、どのように利害が大きいこと(参加意欲を高めると予測)および利益が実現する可能性が低いこと(参加意欲を低めると予測)の情報刺激の効果が異なるのか検証を行った。さらに先に述べた二つの研究目的のうち二つめを達成するために、確率標本を用いたインターネット調査実用化に向けて、確率標本によるインターネット調査を実施した。2015年度から2017年度は住宅地図を用いた層化無作為二段抽出、また2018年度は選挙人名簿/住民基本台帳からの層化無作為二段抽出によって得られた確率標本に対してインターネット調査への協力を依頼した。さらに比較対象となる別モード(2015・2016年度アメリカの通常インターネット調査、2017年度日米での通常インターネット調査、あるいは2018年度の郵送調査)と同時並行して実施した。また各調査において、どのような状況で依頼を行ったのか訪問記録データを収集した。表1はこれをまとめたものである。

		こ別961ンター不		
	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度
対象	全国の 20 ~ 69 歳 の男女	近畿 3 府県(京都、大阪、兵庫)の20~69歳の男女	-	京都市の 18~69 歳の男女
抽出方法	住宅地図を用い た層化無作為二 段抽出	住宅地図を用い た層化無作為二 段抽出	住宅地図を用い た層化無作為二 段抽出	選挙人名簿 / 住 民基本台帳から の層化無作為二 段抽出
依頼方法	調査員によるポ スティング	調査員による訪 問	調査員による訪 問	調査対象者のう ち調査員による 訪問と郵送の半 数ずつ
期間	2016年1月31~ 2月14日	2017年2月4日~2月28日	2018年2月3日 ~2月18日	2019年2月2日 (土)~3月17 日(日)
フォロー	なし	なし	2月24日(土) から3月11日未 回答者に再依頼。	3月1日(金)か ら3月17日(日) まで未回答者に 再依頼。
謝礼	500 円 分 の Amazon ギフトカ ード。ボールペ ン前渡し。	500円分の QUO カード、Amazon ギフトカード、あるいは寄付(後渡し) ボールペン前渡し。	500円分の QUO カード、Amazon ギフトカード、あるいは寄付(後渡し、ハンドタオル前渡し。	500円分のQUOカ ード、Amazon ギ フトカード、あ るいは寄付(後 渡し)。クリアフ ァイル前渡し。
配布数	1,500(60人×25 地点)	1,080(40人×27 地点)	1,600(50人×32 地点)	1,200人(50人× 24地点)
インターネット 調査	アメリカで実施	アメリカで実施	日本とアメリカ で実施	実施なし

表1 確率標本に対するインターネット調査の概要

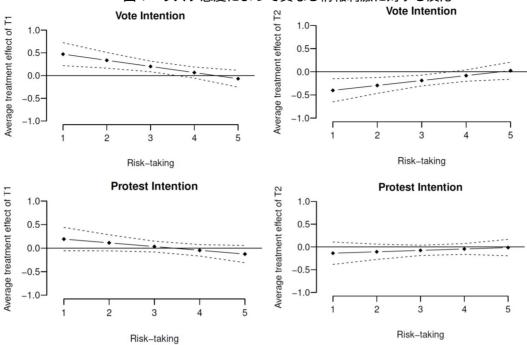
なお、2014 年度に申請書を作成していた時点では確率標本に対するインターネット調査の試みは管見の限り日本では行われていなかったが本研究が開始された後、本研究とは独立して NHK (2016 年 9・10 月および 2017 年 10~12 月) 朝日新聞社(2016 年 10 月) 毎日新聞社・埼玉大学(2016 年 10~12 月)などによる住民基本台帳あるいは選挙人名簿からの無作為抽出による確率標本に対するインターネット調査の試みが相次いで行われている。

# 4.研究成果

第一の課題である投票外参加を説明する独自の理論モデルの構築と実証の成果について、大きくは予測どおり、リスク受容的な態度をもつ回答者ほど投票参加にも投票外参加にも高い意欲をもつこと、またリスク回避的な態度をもつ回答者ほど利害が大きいことおよび利益が実現する可能性が低いことの情報刺激の影響を受けやすいことが明らかになった。これはリスク受容的な有権者ほど政治参加により利益が実現する可能性を気にかけずに参加することを示唆する。このことに関して 2018 年に日本で実施されたインターネット調査におけるサーベイ実験の結果をまとめたものが図 1 である。

また、リスク態度以外の属性によってもこれらの情報刺激に対する反応は異なる。例えば、男性、無党派、収入が比較的低いグループ、大卒未満のグループの間では、政治参加の利害が大きいことに反応して政治参加の意欲が高まるのに対し、女性、支持政党をもつグループは利益が実現する可能性が低いことに反応して政治参加の意欲が低下する。

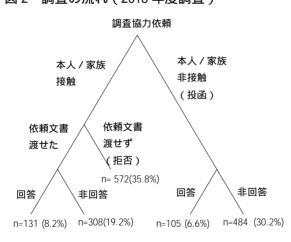
図1 リスク態度によって異なる情報刺激に対する反応



注 T1:「政治参加の利害が大きい」情報刺激 T2:「利益が実現する可能性が低い」情報刺激

さらに第二の課題である確率標本を用いたインターネット調査の手法の実用化について、2018年に実施した地図抽出による確率標本に対するインターネット調査を例にその成果を述べる。調査においてはいかに多くの対象者をインターネット上に誘導できるか回答率がカギとなる。そこで本調査では調査員による訪問による調査協力依頼が行われた。訪問の結果は、対象者本人に会えた、本人以外の家族に会えた、誰にも会えなかったに別れる。図2は、本人/家族接触の有無で分けた回答/非回答/拒否の状況を示したものである(接触にはフォロー訪問での接触も含む)。

# 図 2 調査の流れ (2018年度調査)



これによると、対象者 1,600 人のうち回答を得たのは本人あるいは家族に会えた場合の(1,011 人中)131 人と、本人/家族に会えずにポストに投函した場合の(589 人中)105 人の合計236 人であり、回答率は14.8%である。ただし、回答率は本人接触、家族接触、接触なしの場合で大きく異なる。

こうした接触形態による回答率の違いの主要な原因と思われるのが、家族に接触できたとしても依頼文書を渡せず拒否されることが多いということである。すなわち本人に接触できた場合、調査協力依頼しても 41.0%に調査協力依頼文書受け取りを拒否されるのに対し、家族に接触した場合は 59.5%に拒否される。これはおそらく本人に無断で文書を受け

取ることに抵抗があるからだと思われる。

接触の効果について、居住形態、居住地域を考慮して分析したものが表2である。ここでは回答(1)/非回答(0)を従属変数、本人接触ダミーと家族接触ダミー(参照カテゴリは「接触なし」、オートロックマンションダミーと非オートロックマンションダミー(参照カテゴリは「戸建て」、大阪ダミーと兵庫ダミー(参照カテゴリは「京都」)を独立変数としたロジット分析を行っている。

本人接触について見てみると、オッズ比が 1.87 と回答率を高める要因となっており、拒否にあう可能性を考慮してもなお、本人に接触することによって接触なしの場合と比べて回答する確率が 87%高くなることが推定されている。一方で、家族接触についてオッズ比が 0.48 と回答率を低める要因となっており、家族に接触することによって接触なしの場合と比べて回答する確率が 52%低くなることが推定されている。これは先にも述べた通り、家族に会うことによって拒否される可能性が高くなるからだと考えられる。これらの変数の回答率への影響はいずれも

オッズ比の 95%信頼区間が 1 をまたいでいないことから、5%水準で統計的に有意であると言える。

表 2 回答率の規定要因

独立変数	オッズ比	95%信頼区間
定数項	0.22	[0.14, 0.34]
本人接触	1.87	[1.26, 2.74]
家族接触	0.48	[0.35, 0.66]
オートロックマンション	1.00	[0.64, 1.52]
非オートロックマンション	0.80	[0.56, 1.13]
大阪	0.85	[0.51, 1.41]
兵庫	1.12	[0.75, 1.69]
ケース数		1600

表 3 調査モード間の比較

10 明直し	1 1010710-	FA.
	地図抽出	通常
変数	ネット調査	ネット調査
男性割合	0.500	0.502
60歳以上割合	0.191	0.331
大卒割合	0.446	0.453
世帯年収800万円以上割合	0.228	0.178
パスポート保有率	0.468	0.436
運転免許保有率	0.882	0.858
内閣支持率	0.506	0.405
ケース数	231-236	2008

- しかしながら、このように低い回収率に留まった一方で、同時に行われた登録パネルから性別、年齢、居住地域により割り付けた標本に対する通常インターネット調査標本は極端に違いがあるインターネット調査標本は極端に違いがあるわけではない。表3は、地図抽出インターネット調査と通常ネット調査の2つの調査と通常ネット調査の5、男性割合、60歳以上の割合、大卒割合、世帯年収800万円以上の割合、パスポート保有率、運転免許保有率、内閣支持率を示したものである。

男性割合は両調査とも約 50%とほぼ同じとなっている。総務省のデータと比べて、両調査の男性割合ともパラメータと大きく外れているとは言えない。

60 歳以上割合は、地図抽出インターネット調査が19.1%、通常インターネット調査が33.1%と、前者の方が後者よりもかなり低くなっている。総務省のデータと比べて、両調査とも60歳以上割合の推定値がパラメータを下回っているが、地図由出インターネット調査の乖離がとりわけ大き

大卒割合は両調査とも 45%前後で似通った数字となっている。総務省のデータと比べて、両調査における大卒割合は、明らかにパラメータよりは高いことが推測される。

世帯年収800万円以上割合は地図抽出インターネット調査が22.8%、通常インターネット調査が17.8%と、前者が後者よりも若干高い値を示している。一方で厚生労働省の「国民生活基礎調査」によると、2017年において世帯所得が800万円を超える世帯は21.8%となっている。この調査自体抽出調査でありパラメータとは言えず、また全国調査であるという点も考慮しないといけないものの、地図抽出インターネット調査の方がこれに近い値を示している。

パスポート保有率は地図抽出インターネット調査が 46.8%、通常インターネット調査が 43.6% と、前者が後者よりも若干高いものの似た値を示している。外務省のデータから推計される 20 歳以上の有権者のパスポート保有率と比べて、両調査ともパスポート保有率はパラメータより大幅に高いであろうことが推測される。

運転免許保有率は両調査とも 80%代後半と似た値を示している。内閣府のデータと比べて、16歳以上と 18歳以上で分母が異なること、外国人を含むことを勘案しても、両調査における運転免許保有率はパラメータよりも高いと考えられる。

最後に内閣支持率は、地図抽出インターネット調査が50.6%、通常インターネット調査が40.5%と、明らかに前者が後者よりも高くなっている。一方で、全国の18歳以上の男女2,000人を対象に2018年2月9日から12日に実施された面接による時事世論調査(有効回収率:61.9%)の内閣支持率は48.7%であり、これは地図抽出インターネット調査の方に近くなっている。

以上の研究成果は、二つの意義をもつ。第一に、投票参加のメカニズムと比較してこれまで解明が進んでこなかった投票外参加のメカニズムの一端を明らかにしたことである。投票以外の政治参加の実質的および理論的重要性は今後ますます高まると考えられるが、今後デモなどの旧来のものにとどまらず SNS における抗議運動など新たな種類の投票外参加のメカニズムについても本研究の理論的枠組みを応用することが可能である。第二に、確率標本に対するインターネット調査に関する知見を蓄積したことである。先述のとおり、本研究期間中にマスコミ各社も確率標本を用いたインターネット調査手法の確立に向けた取り組みを始めたが、未だ実用化には至っていない。本研究の成果もこれら実務者が参加する学会でも報告し知見を共有しており、今後の発展が期待される。

# 5 . 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計22件(うち査読付論文 9件/うち国際共著 3件/うちオープンアクセス 4件)

1.著者名 飯田健・池田謙一・西澤由隆・松林哲也	<b>4</b> .巻 17
2.論文標題 地図抽出による確率標本に対するインターネット調査:回答率の決定要因と調査モード間の比較	5.発行年 2019年
3.雑誌名 政策と調査	6 . 最初と最後の頁 17-20
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著
1.著者名 Takeshi lida	<b>4</b> .巻 30
2.論文標題 Citizens' Constitutional Knowledge and American Representative Democracy	5.発行年 2019年
3.雑誌名 Japanese Journal of American Studies	6.最初と最後の頁 53-73
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 . 著者名  飯田健	- 4.巻 681
1 . 著者名	_
1 . 著者名 飯田健 2 . 論文標題	5 . 発行年
1 . 著者名 飯田健         2 . 論文標題 トランプ支持者再考:通説と実証研究との乖離         3 . 雑誌名	5.発行年 2019年 6.最初と最後の頁
1 . 著者名 飯田健         2 . 論文標題 トランプ支持者再考:通説と実証研究との乖離         3 . 雑誌名 国際問題         掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)	5 . 発行年 2019年 6 . 最初と最後の頁 6-17 査読の有無
1 . 著者名 飯田健  2 . 論文標題 トランプ支持者再考:通説と実証研究との乖離  3 . 雑誌名 国際問題  掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) なし  オープンアクセス	5 . 発行年 2019年 6 . 最初と最後の頁 6-17 査読の有無
1 . 著者名 飯田健         2 . 論文標題 トランプ支持者再考:通説と実証研究との乖離         3 . 雑誌名 国際問題         掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)なし         オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難         1 . 著者名 飯田健         2 . 論文標題 格差、治安、再分配支持: 国家間のマルチレベル分析	5 . 発行年 2019年 6 . 最初と最後の頁 6-17 査読の有無 無 国際共著 - 4 . 巻 20 5 . 発行年 2018年
1 . 著者名 飯田健         2 . 論文標題 トランプ支持者再考:通説と実証研究との乖離         3 . 雑誌名 国際問題         掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし         オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難         1 . 著者名 飯田健         2 . 論文標題	5 . 発行年 2019年 6 . 最初と最後の頁 6-17 査読の有無 無 国際共著 - 4 . 巻 20 5 . 発行年
1 . 著者名 飯田健         2 . 論文標題 トランプ支持者再考:通説と実証研究との乖離         3 . 雑誌名 国際問題         掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし         オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難         1 . 著者名 飯田健         2 . 論文標題 格差、治安、再分配支持: 国家間のマルチレベル分析         3 . 雑誌名	5 . 発行年 2019年 6 . 最初と最後の頁 6-17 査読の有無 無 国際共著 - 4 . 巻 20 5 . 発行年 2018年 6 . 最初と最後の頁

1.著者名 Takeshi lida	4. 巻
2 . 論文標題 Media Coverage and the Association between Japanese Perceptions of South Korea and North Korea	5 . 発行年 2018年
3.雑誌名 Japanese Political Science Review	6.最初と最後の頁 1-25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15544/2018005	   査読の有無   有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著
1 菜2勺	4.巻
1 . 著者名 飯田健	4 · 용 2018-II
2 . 論文標題 政党の争点立場認知と投票後悔:2016年参院選における護憲派による改憲勢力への投票	5 . 発行年 2018年
3.雑誌名 年報政治学	6.最初と最後の頁 60-81
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	   査読の有無   無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著
1 菜 2 夕	┃ 4.巻
1.著者名 河野勝・西澤由隆	2019年4月号
2 . 論文標題 ヘイトスピーチ規制への賛否はどう決まるのか	5 . 発行年 2019年
3.雑誌名中央公論	6.最初と最後の頁 166-180
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	   査読の有無   無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著
1 . 著者名 Jong Hee Park, Junghwan Lee, and Takeshi Iida	4.巻 51(3)
2 . 論文標題 Consumption Tax Increase and Government Trust: Assessing Citizen Responses to the 2014 Consumption Tax Increase in Japan	5 . 発行年 2017年
3.雑誌名 Korean Political Science Review	6.最初と最後の頁 27-52
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.18854/kpsr.2017.51.3.002	   査読の有無     有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1.著者名	4 . 巻
田中愛治・齋藤純一・西澤由隆・田部井滉平	61
2.論文標題	5 . 発行年
熟議と熟慮:市民のニーズを探る新たな方法の模索	2017年
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
レヴァイアサン	9-31
掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子)	査読の有無
なし	無
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-
	4 . 巻
西澤由隆	396
2 . 論文標題	5 . 発行年
『失われた20年』と政治格差:『福祉か減税か』に関するパズルをめぐって	2018年
3 . 雑誌名	6 . 最初と最後の頁
同志社法学	59-91
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
19型舗又の001(ナンタルオンシェクト部が丁) なし	重読の有無無
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスとしている(また、その予定である)	- -
	A #4
1 . 著者名 松林哲也	4 . 巻 33(2)
2 . 論文標題	5 . 発行年
期日前投票制度と投票率	2017年
3 . 雑誌名	6.最初と最後の頁
選挙研究	58-72
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)	
拘束以冊又のDOT ( デンタルオフシェクトinkが)	直読の有無   有
オープンアクセス	〒欧井笠
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著
1 . 著者名 遠藤晶久・三村憲弘・山﨑新	4. 巻 61
	F 25/-/-
2 . 論文標題 熟議を条件付けるイデオロギー対立:反論提示実験による検証	5.発行年 2017年
	·
3.雑誌名 レヴァイアサン	6.最初と最後の頁 115-136
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
なし	無
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-

1.著者名 飯田健       4.巻 59         2.論文標題 自民党大阪市会議員の大阪維新の会への鞍替えの分析:中選挙区制下の再選欲求と潜在的政策選好       5.発行年 2016年         3.雑誌名 レヴァイアサン       6.最初と 80-105         掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)       査読の有無	E
2.論文標題 自民党大阪市会議員の大阪維新の会への鞍替えの分析:中選挙区制下の再選欲求と潜在的政策選好       5.発行年 2016年         3.雑誌名 レヴァイアサン       6.最初と 80-105	:
自民党大阪市会議員の大阪維新の会への鞍替えの分析:中選挙区制下の再選欲求と潜在的政策選好       2016年         3.雑誌名       6.最初と         レヴァイアサン       80-105	<u> </u>
自民党大阪市会議員の大阪維新の会への鞍替えの分析:中選挙区制下の再選欲求と潜在的政策選好       2016年         3.雑誌名 レヴァイアサン       6.最初と 80-105	=
3 . 雑誌名 レヴァイアサン 80-105	
レヴァイアサン 80-105	
レヴァイアサン 80-105	
	.最後の貝
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) - 「	
	Ę
なし	無
オープンアクセス 国際共著	
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-
1 . 著者名 4 . 巻	
飯田健 67	
DA PA INC	
2. 論文標題 5. 発行年	
アメリカ政治学における数理モデルの衰退と実験の隆盛:因果効果の概念に着目して 2016年	
, ハッカ政内でにのける奴廷 C.7.7VV R.D.C.大家の陸血・凶木刈木VV N.D.C.(自日 U.C.) 2010年	
	・最後の百
	. 取収の只
公共選択 46-64	
Tation	<u> </u>
なし	無
オープンアクセス	
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-
│ 1.著者名 │ │ 4.巻	
Yasushi Asako, Tetsuya Matsubayashi, Michiko Ueda 16	
2.論文標題 5.発行年	-
Legislative Term Limits and Government Spending: Theory and Evidence from the United States 2016年	
Logiciative serial data determines operating street, and Live series series and the series of the se	
3.雑誌名 6.最初と	・最後の百
The B.E. Journal of Economic Analysis & Policy	
The B.E. Southar of Economic Analysis a Forrey	50
掲載論文のDOI ( デジタルオブジェクト識別子 )	<u> </u>
https://doi.org/10.1515/bejeap-2015-0216	<del>*</del> 有
Inttps://doi.org/10.1313/bejeap-2013-0210	Ħ
オープンアクセス 国際共著	
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-
4 ++++/-	
1. 著者名 4. 巻	
Tony E. Carey Jr., Valerie Martinez-Ebers, Tetsuva Matsubayashi, and Phillip Paolino 52	
Tony E. Carey Jr., Valerie Martinez-Ebers, Tetsuya Matsubayashi, and Phillip Paolino 52	
	Ė
2 . 論文標題 5 . 発行年	
2.論文標題 Eres Amigo o Enemigo? Contextual Determinants of Latinos' Perceived Competition with African-Americans 5.発行年 2016年	
2. 論文標題 Eres Amigo o Enemigo? Contextual Determinants of Latinos' Perceived Competition with African- 2016年	:最後の頁
2.論文標題 Eres Amigo o Enemigo? Contextual Determinants of Latinos' Perceived Competition with African-Americans 5.発行年 2016年	
2.論文標題 Eres Amigo o Enemigo? Contextual Determinants of Latinos' Perceived Competition with African-Americans 3.雑誌名 6.最初と	
2.論文標題 Eres Amigo o Enemigo? Contextual Determinants of Latinos' Perceived Competition with African-Americans 3.雑誌名 6.最初と	
2.論文標題 Eres Amigo o Enemigo? Contextual Determinants of Latinos' Perceived Competition with African-Americans 3.雑誌名 Urban Affairs Review 5.発行年 2016年 6.最初と 155-181	
2.論文標題 Eres Amigo o Enemigo? Contextual Determinants of Latinos' Perceived Competition with African-Americans 3.雑誌名 Urban Affairs Review 6.最初と 155-181 掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) 査読の有無	Į
2.論文標題 Eres Amigo o Enemigo? Contextual Determinants of Latinos' Perceived Competition with African-Americans 3.雑誌名 Urban Affairs Review 5.発行年 2016年 6.最初と 155-181	
2.論文標題 Eres Amigo o Enemigo? Contextual Determinants of Latinos' Perceived Competition with African-Americans 3.雑誌名 Urban Affairs Review  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) https://doi.org/10.1177/1078087415574347	Į
2.論文標題 Eres Amigo o Enemigo? Contextual Determinants of Latinos' Perceived Competition with African-Americans 3.雑誌名 Urban Affairs Review  掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) https://doi.org/10.1177/1078087415574347  国際共著	Į

1 ・ 高名名	松林哲也       2.論文標題       5         投票環境と投票率       5	
2	松林哲也       2.論文標題       5         投票環境と投票率       5	. 巻
2 . 論文程語 投票項信と投票率 3 . 始認名 2 . 論文を紹介 3 . 始認名 3 . 始認名 3 . 始認名 3 . 始認名 3 . かまから	2.論文標題       5         投票環境と投票率       5	_
2016年 3 . 雑誌名	投票環境と投票率	02
2016年 3 . 雑誌名	投票環境と投票率	
2016年 3 . 雑誌名 (会別と最後の頁 47-60 (不) (デジタルオブジェクト陽別子) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本	投票環境と投票率	. 発行年
3. 補助名 選挙研究		
接動議文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) 直読の有無 有 コープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1. 著書名 飯田健 3.1(1) 2. 議文標語 子型・アクセスではない、又はオープンアクセスが困難 2. 通文標語 3. 雑誌名 3.1(1) 2. 通文標語 3. 雑誌名 3.1(1) 2. 通文原語 3. 雑誌名 3.1(1) 2. 通文原語 3. 雑誌名 3.1(1) 2. 通文原語 4. 2(1) 2. 第文原語 3. 雑誌名 3.1(1) 2. 第2 2(1) 2. 第2 2(1) 2. 第2 2(1) 3. # 2 3(1) 3. # 3 3(1		20104
接験論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子)		
接影論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子)	Ⅰ3.雑誌名                      6	. 最初と最後の百
指数論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子)		
なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが回難  1 ・著者名 飯田健 2 ・論文標題 5 ・発行年 有権者のリスク態度と政権基盤の強化:2013年参院選における分割投票 5 ・発行年 有権者のリスク態度と政権基盤の強化:2013年参院選における分割投票 6 ・屋切と監後の頁 71・83  掲載論文の201(デジタルオプジェクト識別子) なし 1 ・著者名 Takeshi lida 1 ・著名名 Surjing Progressives in the Conservative Mood: The Conditional Effects of Income and Urbanism on Vote Choice in the 2014 Japanese Lower House Election 3 ・殖誌を Asian Journal of Comparative Politics 6 ・屋切と厳後の頁 8-24  1 ・著名名 Regina Branton, Tony E. Carey Jr., Valerie Martinez-Ebers, and Tetsuya Matsubayashi 2 ・論文標題 Social Protest and Policy Attitudes: The Case of the 2006 Immigrant Rallies 3 ・発行年 2015年 2016年 5 ・発行年 2016年 6 ・最初と最後の頁 8-24  1 ・著名名 Regina Branton, Tony E. Carey Jr., Valerie Martinez-Ebers, and Tetsuya Matsubayashi 5 ・発行年 2015年 6 ・最初と最後の頁 3 ・発行年 2015年 6 ・最初と最後の頁 3 ・発行年 2015年 6 ・最初と最後の頁 3 ・ 発行年 2015年 7 ・ アンアクセス する する する する する する する を	进争研究	47-60
なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 ・著名名 新田健 2 ・論文標題 有権者のリスク態度と政権基盤の強化: 2013年参院選における分割投票 3 ・雑誌名 3 ・雑誌名 3 ・雑誌名 3 ・雑誌名 1 ・著名名 7		
なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 ・著名名 新田健 2 ・論文標題 有権者のリスク態度と政権基盤の強化: 2013年参院選における分割投票 3 ・雑誌名 3 ・雑誌名 3 ・雑誌名 3 ・雑誌名 1 ・著名名 7		
なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 ・著名名 新田健 2 ・論文標題 有権者のリスク態度と政権基盤の強化: 2013年参院選における分割投票 3 ・雑誌名 3 ・雑誌名 3 ・雑誌名 3 ・雑誌名 1 ・著名名 7	担割会立のDOL(デングロリナザンデーカー部のIフ)	はの 左 価
1. 音者名	拘製舗人のDOT (デンタルイプジェクト部別士)	祝の行無
1. 音者名	なし	有
*** *** *** *** *** *** *** *** *** *		
*** *** *** *** *** *** *** *** *** *		Dhy 11 ++
		除共者
	オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが闲難	-
<ul> <li>飯田健</li> <li>1. 該域相類 有権者のリスク態度と政権基盤の強化: 2013年参院選における分割投票</li> <li>3. 姚誌名</li></ul>		
<ul> <li>飯田健</li> <li>1.</li></ul>		
<ul> <li>飯田健</li> <li>1.</li></ul>	│ 1 . 著者名	.巻
2. 論文標題		_
3 雑誌名 3 # # # # # # # # # # # # # # # # # # #	以以以医	J1(1)
3 . 雑誌名		
3 雑誌名 5	2.論文標題 5	発行年
3. 雑誌名 選挙研究  「相談論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  「・ 書名名 Takeshi lida 2. 論文標題 Surging Progressives in the Conservative Mood: The Conditional Effects of Income and Urbanism on Vote Choice in the 2014 Japanese Lower House Election 3. 雑誌名 Asian Journal of Comparative Politics  「 ・ 著名名 Regina Branton, Tony E. Carey Jr., Valerie Martinez-Ebers, and Tetsuya Matsubayashi 2. 論文標題 Social Protest and Policy Attitudes: The Case of the 2006 Immigrant Rallies  1. 著名名 Regina Branton, Tony E. Carey Jr., Valerie Martinez-Ebers, and Tetsuya Matsubayashi 3. 雑誌名 American Journal of Political Science  「 ・ 発行年 2015年 3. 雑誌名 American Journal of Political Science  「 ・ 発行年 2015年 3. 雑誌名 American Journal of Political Science  「 ・ 発行年 2015年 3. 雑誌名 American Journal of Political Science  「 ・ 最初と最後の頁 390-402  「 ・ 発行年 2015年 3. 雑誌名 American Journal of Political Science  「 ・ 最初の		
選挙研究 71-83  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし 国際共著 無	<b>有惟有のリスク悲及と以惟奉盛の独化:2013年</b> 季阮푱における分割投崇	2015年
選挙研究 71-83		
選挙研究 71-83	3、雑誌名	最初と最後の百
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1. 著者名 Takeshi lida 2. 論文標題 Surging Progressives in the Conservative Mood: The Conditional Effects of Income and Urbanism on Vote Choice in the 2014 Japanese Lower House Election 3. 雑誌名 Asian Journal of Comparative Politics 6. 最初と最後の頁 6-24  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1177/2057891115620700  1. 著者名 Regina Branton, Tony E. Carey Jr., Valerie Martinez-Ebers, and Tetsuya Matsubayashi  2. 論文標題 Social Protest and Policy Attitudes: The Case of the 2006 Immigrant Rallies  3. 雑誌名 American Journal of Political Science  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 1. 新書名 Regina Branton, Tony E. Carey Jr., Valerie Martinez-Ebers, and Tetsuya Matsubayashi 5. 発行年2015年 3. 雑誌名 American Journal of Political Science  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/ajps.12159  南 オープンアクセス 国際共者		
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1. 著者名 Takeshi lida 2. 論文標題 Surging Progressives in the Conservative Mood: The Conditional Effects of Income and Urbanism on Vote Choice in the 2014 Japanese Lower House Election 3. 雑誌名 Asian Journal of Comparative Politics 6. 最初と最後の頁 6-24  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1177/2057891115620700  1. 著者名 Regina Branton, Tony E. Carey Jr., Valerie Martinez-Ebers, and Tetsuya Matsubayashi  2. 論文標題 Social Protest and Policy Attitudes: The Case of the 2006 Immigrant Rallies  3. 雑誌名 American Journal of Political Science  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 1. 新書名 Regina Branton, Tony E. Carey Jr., Valerie Martinez-Ebers, and Tetsuya Matsubayashi 5. 発行年2015年 3. 雑誌名 American Journal of Political Science  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/ajps.12159  南 オープンアクセス 国際共者	<b>選至</b> 研究	71-83
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1. 著者名 Takeshi lida 2. 論文標題 Surging Progressives in the Conservative Mood: The Conditional Effects of Income and Urbanism on Vote Choice in the 2014 Japanese Lower House Election 3. 雑誌名 Asian Journal of Comparative Politics 6. 最初と最後の頁 6-24 掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) 10.1177/2057891115620700 有 オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1. 著者名 Regina Branton, Tony E. Carey Jr., Valerie Martinez-Ebers, and Tetsuya Matsubayashi 2. 論文標題 Social Protest and Policy Attitudes: The Case of the 2006 Immigrant Rallies  3. 雑誌名 American Journal of Political Science  掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) 10.1111/ajps.12159  査読の有無 10.1111/ajps.12159  査読の有無 10.1111/ajps.12159		
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1. 著者名 Takeshi lida 2. 論文標題 Surging Progressives in the Conservative Mood: The Conditional Effects of Income and Urbanism on Vote Choice in the 2014 Japanese Lower House Election 3. 雑誌名 Asian Journal of Comparative Politics 6. 最初と最後の頁 6-24 掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) 10.1177/2057891115620700 有 オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1. 著者名 Regina Branton, Tony E. Carey Jr., Valerie Martinez-Ebers, and Tetsuya Matsubayashi 2. 論文標題 Social Protest and Policy Attitudes: The Case of the 2006 Immigrant Rallies  3. 雑誌名 American Journal of Political Science  掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) 10.1111/ajps.12159  査読の有無 10.1111/ajps.12159  査読の有無 10.1111/ajps.12159		
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1. 著者名 Takeshi lida 2. 論文標題 Surging Progressives in the Conservative Mood: The Conditional Effects of Income and Urbanism on Vote Choice in the 2014 Japanese Lower House Election 3. 雑誌名 Asian Journal of Comparative Politics 6. 最初と最後の頁 6-24 掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) 10.1177/2057891115620700 有 オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1. 著者名 Regina Branton, Tony E. Carey Jr., Valerie Martinez-Ebers, and Tetsuya Matsubayashi 2. 論文標題 Social Protest and Policy Attitudes: The Case of the 2006 Immigrant Rallies  3. 雑誌名 American Journal of Political Science  掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) 10.1111/ajps.12159  査読の有無 10.1111/ajps.12159  査読の有無 10.1111/ajps.12159		
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1. 著者名 Takeshi lida 2. 論文標題 Surging Progressives in the Conservative Mood: The Conditional Effects of Income and Urbanism on Vote Choice in the 2014 Japanese Lower House Election 3. 雑誌名 Asian Journal of Comparative Politics 6. 最初と最後の頁 6-24 掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) 10.1177/2057891115620700 有 オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1. 著者名 Regina Branton, Tony E. Carey Jr., Valerie Martinez-Ebers, and Tetsuya Matsubayashi 2. 論文標題 Social Protest and Policy Attitudes: The Case of the 2006 Immigrant Rallies  3. 雑誌名 American Journal of Political Science  掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) 10.1111/ajps.12159  査読の有無 10.1111/ajps.12159  査読の有無 10.1111/ajps.12159	掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)   査:	読の有無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1. 著者名 Takeshi lida  2. 論文標題 Surging Progressives in the Conservative Mood: The Conditional Effects of Income and Urbanism on Vote Choice in the 2014 Japanese Lower House Election  3. 雑誌名 Asian Journal of Comparative Politics  4. 巻 10.1177/2057891115620700  4. 巻 10.1177/2057891115620700  5. 発行年 2016年 6. 最初と最後の頁 6-24  掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 1. 著者名 Regina Branton, Tony E. Carey Jr., Valerie Martinez-Ebers, and Tetsuya Matsubayashi  1. 著者名 Regina Branton, Tony E. Carey Jr., Valerie Martinez-Ebers, and Tetsuya Matsubayashi  2. 論文標題 Social Protest and Policy Attitudes: The Case of the 2006 Immigrant Rallies  5. 発行年 2015年  5. 発行年 2015年  6. 最初と最後の頁 390-402  掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/ajps.12159  有  オープンアクセス  国際共著		<del>1111</del>
### ### #############################	40	***
### ### #############################		
### ### #############################	オープンアクセス	際共著
1. 著者名 Takeshi Iida  2. 論文標題 Surging Progressives in the Conservative Mood: The Conditional Effects of Income and Urbanism on Vote Choice in the 2014 Japanese Lower House Election  3. 雑誌名 Asian Journal of Comparative Politics  4. 巻 2016年  6. 最初と最後の頁 6-24  掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1177/2057891115620700  1. 著者名 Regina Branton, Tony E. Carey Jr., Valerie Martinez-Ebers, and Tetsuya Matsubayashi  2. 論文標題 Social Protest and Policy Attitudes: The Case of the 2006 Immigrant Rallies  3. 雑誌名 American Journal of Political Science  掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/ajps.12159  有  オープンアクセス  国際共著		13.7 ( 1
Takeshi lida 1(1) 1(1) 2 . 論文標題 Surging Progressives in the Conservative Mood: The Conditional Effects of Income and Urbanism on Vote Choice in the 2014 Japanese Lower House Election 3 . 雑誌名 6 . 最初と最後の頁 6-24 6 . 最初と最後の頁 6-24 6 . 最初と最後の頁 6-24 6 . 最初と最後の頁 6-24 7	オープファクセスではない、又はオープファクセスが困難	-
Takeshi lida 1(1) 1(1) 2 . 論文標題 Surging Progressives in the Conservative Mood: The Conditional Effects of Income and Urbanism on Vote Choice in the 2014 Japanese Lower House Election 3 . 雑誌名 6 . 最初と最後の頁 6-24 6 . 最初と最後の頁 6-24 6 . 最初と最後の頁 6-24 6 . 最初と最後の頁 6-24 7		
Takeshi lida 1(1) 1(1) 2 . 論文標題 Surging Progressives in the Conservative Mood: The Conditional Effects of Income and Urbanism on Vote Choice in the 2014 Japanese Lower House Election 3 . 雑誌名 6 . 最初と最後の頁 6-24 6 . 最初と最後の頁 6-24 6 . 最初と最後の頁 6-24 6 . 最初と最後の頁 6-24 7	1 至4夕	类
2 . 論文標題 Surging Progressives in the Conservative Mood: The Conditional Effects of Income and Urbanism on Vote Choice in the 2014 Japanese Lower House Election  3 . 雑誌名 Asian Journal of Comparative Politics  4 . 最初と最後の頁 6 - 24  掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10 . 1177/2057891115620700  5 . 兼行年 アプンアクセス  オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 . 著者名 Regina Branton, Tony E. Carey Jr., Valerie Martinez-Ebers, and Tetsuya Matsubayashi  2 . 論文標題 Social Protest and Policy Attitudes: The Case of the 2006 Immigrant Rallies  3 . 雑誌名 American Journal of Political Science  掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10 . 11111/ajps . 12159  有  オープンアクセス  国際共著		_
Surging Progressives in the Conservative Mood: The Conditional Effects of Income and Urbanism on Vote Choice in the 2014 Japanese Lower House Election  3. 雑誌名 Asian Journal of Comparative Politics  6. 最初と最後の頁 6-24  掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) 10.1177/2057891115620700  7 オープンアクセス  1. 著者名 Regina Branton, Tony E. Carey Jr., Valerie Martinez-Ebers, and Tetsuya Matsubayashi  2. 第文標題 Social Protest and Policy Attitudes: The Case of the 2006 Immigrant Rallies  3. 雑誌名 American Journal of Political Science  1. 表読の可能	Takeshi lida	1(1)
Surging Progressives in the Conservative Mood: The Conditional Effects of Income and Urbanism on Vote Choice in the 2014 Japanese Lower House Election  3. 雑誌名 Asian Journal of Comparative Politics  6. 最初と最後の頁 6-24  掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子)		
Surging Progressives in the Conservative Mood: The Conditional Effects of Income and Urbanism on Vote Choice in the 2014 Japanese Lower House Election  3. 雑誌名 Asian Journal of Comparative Politics  6. 最初と最後の頁 6-24  掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子)	2 54 计每時	36.70年
on Vote Choice in the 2014 Japanese Lower House Election  3 . 雑誌名 Asian Journal of Comparative Politics  6 . 最初と最後の頁 6-24  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1177/2057891115620700  1 . 著者名 Regina Branton, Tony E. Carey Jr., Valerie Martinez-Ebers, and Tetsuya Matsubayashi  2 . 論文標題 Social Protest and Policy Attitudes: The Case of the 2006 Immigrant Rallies  3 . 雑誌名 American Journal of Political Science  4 . 巻 59(2)  5 . 発行年 2015年  3 . 雑誌名 American Journal of Political Science  4 . 巻 300-402  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/ajps.12159  有  オープンアクセス  国際共著	·····	
3 . 雑誌名 Asian Journal of Comparative Politics  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1177/2057891115620700  オープンアクセス  国際共著  1 . 著者名 Regina Branton, Tony E. Carey Jr., Valerie Martinez-Ebers, and Tetsuya Matsubayashi  2 . 論文標題 Social Protest and Policy Attitudes: The Case of the 2006 Immigrant Rallies  3 . 雑誌名 American Journal of Political Science  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/ajps.12159  査読の有無 有  オープンアクセス  国際共著	Surging Progressives in the Conservative Mood: The Conditional Effects of Income and Urbanism	2016年
3 . 雑誌名 Asian Journal of Comparative Politics  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1177/2057891115620700  オープンアクセス  国際共著  1 . 著者名 Regina Branton, Tony E. Carey Jr., Valerie Martinez-Ebers, and Tetsuya Matsubayashi  2 . 論文標題 Social Protest and Policy Attitudes: The Case of the 2006 Immigrant Rallies  3 . 雑誌名 American Journal of Political Science  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/ajps.12159  a 原共著  6 . 最初と最後の頁 390-402  「意読の有無 有  オープンアクセス  国際共著	on Vote Chaice in the 2014 Jananese Lower House Election	
Asian Journal of Comparative Politics 6-24 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1177/2057891115620700 雷読の有無 有 コープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 - コープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 - コープンアクセスではない。又はオープンアクセスが困難 - 4 . 巻 59(2) 2 . 論文標題 Social Protest and Policy Attitudes: The Case of the 2006 Immigrant Rallies 5 . 発行年 2015年 3 . 雑誌名 American Journal of Political Science 390-402 電読の有無 有 オープンアクセス 国際共著		日初1日後の王
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	3. 維誌名	. 最初と最後の貝
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	Asian Journal of Comparative Politics	6-24
10.1177/2057891115620700 有 国際共著 オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 - 国際共著 - 1 . 著者名 Regina Branton, Tony E. Carey Jr., Valerie Martinez-Ebers, and Tetsuya Matsubayashi 59(2) 2 . 論文標題 5 . 発行年 Social Protest and Policy Attitudes: The Case of the 2006 Immigrant Rallies 2015年 3 . 雑誌名 American Journal of Political Science 3 . 雑誌の頁 390-402 「最戦論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/ajps.12159 有 国際共著	The second of th	* = ·
10.1177/2057891115620700 有 国際共著 オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 - 国際共著 - 1 . 著者名 Regina Branton, Tony E. Carey Jr., Valerie Martinez-Ebers, and Tetsuya Matsubayashi 59(2) 2 . 論文標題 5 . 発行年 2015年 3 . 雑誌名 American Journal of Political Science 3 . 雑誌名 American Journal of Political Science 5 . 最初と最後の頁 390-402 「最戦論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/ajps.12159 有 国際共著		
10.1177/2057891115620700 有 国際共著 オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 - 国際共著 - 1 . 著者名 Regina Branton, Tony E. Carey Jr., Valerie Martinez-Ebers, and Tetsuya Matsubayashi 59(2) 2 . 論文標題 5 . 発行年 2015年 3 . 雑誌名 American Journal of Political Science 3 . 雑誌名 American Journal of Political Science 5 . 最初と最後の頁 390-402 「最戦論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/ajps.12159 有 国際共著		
10.1177/2057891115620700 有 国際共著 オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 - 国際共著 - 1 . 著者名 Regina Branton, Tony E. Carey Jr., Valerie Martinez-Ebers, and Tetsuya Matsubayashi 59(2) 2 . 論文標題 5 . 発行年 2015年 3 . 雑誌名 American Journal of Political Science 3 . 雑誌名 American Journal of Political Science 5 . 最初と最後の頁 390-402 「最戦論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/ajps.12159 有 国際共著	掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	
オープンアクセス  オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 . 著者名 Regina Branton, Tony E. Carey Jr., Valerie Martinez-Ebers, and Tetsuya Matsubayashi  2 . 論文標題 Social Protest and Policy Attitudes: The Case of the 2006 Immigrant Rallies  3 . 雑誌名 American Journal of Political Science  掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) 10.1111/ajps.12159  有  国際共著		
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 -  1 . 著者名 Regina Branton, Tony E. Carey Jr., Valerie Martinez-Ebers, and Tetsuya Matsubayashi 59(2)  2 . 論文標題 Social Protest and Policy Attitudes: The Case of the 2006 Immigrant Rallies 5 . 発行年 2015年  3 . 雑誌名 American Journal of Political Science 6 . 最初と最後の頁 390-402  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 査読の有無 有 オープンアクセス 国際共著	10.1177/205/891115620/00	月
### A - プンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 - 1 . 著者名   Regina Branton, Tony E. Carey Jr., Valerie Martinez-Ebers, and Tetsuya Matsubayashi		
### A - プンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 - 1 . 著者名   Regina Branton, Tony E. Carey Jr., Valerie Martinez-Ebers, and Tetsuya Matsubayashi	オープンアクセス	<b>際</b>
1 . 著者名 Regina Branton, Tony E. Carey Jr., Valerie Martinez-Ebers, and Tetsuya Matsubayashi 59(2)  2 . 論文標題 Social Protest and Policy Attitudes: The Case of the 2006 Immigrant Rallies 5 . 発行年 2015年  3 . 雑誌名 American Journal of Political Science 6 . 最初と最後の頁 390-402  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 査読の有無 有 オープンアクセス 国際共著		F0//17
Regina Branton, Tony E. Carey Jr., Valerie Martinez-Ebers, and Tetsuya Matsubayashi 59(2)  2.論文標題 Social Protest and Policy Attitudes: The Case of the 2006 Immigrant Rallies 5.発行年 2015年  3.雑誌名 American Journal of Political Science 6.最初と最後の頁 390-402  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 査読の有無 有 オープンアクセス 国際共著	オーノンアクセ人ではない、又はオーフンアクセスか困難	
Regina Branton, Tony E. Carey Jr., Valerie Martinez-Ebers, and Tetsuya Matsubayashi 59(2)  2.論文標題 Social Protest and Policy Attitudes: The Case of the 2006 Immigrant Rallies 5.発行年 2015年  3.雑誌名 American Journal of Political Science 6.最初と最後の頁 390-402  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 査読の有無 有 オープンアクセス 国際共著		
Regina Branton, Tony E. Carey Jr., Valerie Martinez-Ebers, and Tetsuya Matsubayashi 59(2)  2.論文標題 Social Protest and Policy Attitudes: The Case of the 2006 Immigrant Rallies 5.発行年 2015年  3.雑誌名 American Journal of Political Science 6.最初と最後の頁 390-402  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 査読の有無 有 オープンアクセス 国際共著	4	*
2.論文標題 Social Protest and Policy Attitudes: The Case of the 2006 Immigrant Rallies5.発行年 2015年3.雑誌名 American Journal of Political Science6.最初と最後の頁 390-402掲載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子) 10.1111/ajps.12159査読の有無 有オープンアクセス国際共著		. 쟏
2.論文標題 Social Protest and Policy Attitudes: The Case of the 2006 Immigrant Rallies5.発行年 2015年3.雑誌名 American Journal of Political Science6.最初と最後の頁 390-402掲載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子) 10.1111/ajps.12159査読の有無 有オープンアクセス国際共著		59(2)
Social Protest and Policy Attitudes: The Case of the 2006 Immigrant Rallies 2015年  3 . 雑誌名 American Journal of Political Science 390-402  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 査読の有無 10.1111/ajps.12159 有		•
Social Protest and Policy Attitudes: The Case of the 2006 Immigrant Rallies 2015年  3 . 雑誌名 American Journal of Political Science 390-402  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 査読の有無 10.1111/ajps.12159 有		74.7-
Social Protest and Policy Attitudes: The Case of the 2006 Immigrant Rallies 2015年  3 . 雑誌名 American Journal of Political Science 390-402  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 査読の有無 10.1111/ajps.12159 有	Regina Branton, Tony E. Carey Jr., Valerie Martinez-Ebers, and Tetsuya Matsubayashi	. 発行年
3.雑誌名       6.最初と最後の頁         American Journal of Political Science       390-402         掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)       査読の有無         10.1111/ajps.12159       有         オープンアクセス       国際共著	Regina Branton, Tony E. Carey Jr., Valerie Martinez-Ebers, and Tetsuya Matsubayashi	
American Journal of Political Science       390-402         掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)       査読の有無         10.1111/ajps.12159       有         オープンアクセス       国際共著	Regina Branton, Tony E. Carey Jr., Valerie Martinez-Ebers, and Tetsuya Matsubayashi  2 . 論文標題	
American Journal of Political Science       390-402         掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)       査読の有無         10.1111/ajps.12159       有         オープンアクセス       国際共著	Regina Branton, Tony E. Carey Jr., Valerie Martinez-Ebers, and Tetsuya Matsubayashi  2 . 論文標題	
American Journal of Political Science       390-402         掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)       査読の有無         10.1111/ajps.12159       有         オープンアクセス       国際共著	Regina Branton, Tony E. Carey Jr., Valerie Martinez-Ebers, and Tetsuya Matsubayashi  2 . 論文標題 Social Protest and Policy Attitudes: The Case of the 2006 Immigrant Rallies	2015年
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 査読の有無 10.1111/ajps.12159 有	Regina Branton, Tony E. Carey Jr., Valerie Martinez-Ebers, and Tetsuya Matsubayashi  2 . 論文標題 Social Protest and Policy Attitudes: The Case of the 2006 Immigrant Rallies	2015年
10.1111/ajps.12159     有       オープンアクセス     国際共著	Regina Branton, Tony E. Carey Jr., Valerie Martinez-Ebers, and Tetsuya Matsubayashi  2.論文標題 Social Protest and Policy Attitudes: The Case of the 2006 Immigrant Rallies  3.雑誌名  6	2015年 . 最初と最後の頁
10.1111/ajps.12159 有 オープンアクセス 国際共著	Regina Branton, Tony E. Carey Jr., Valerie Martinez-Ebers, and Tetsuya Matsubayashi  2.論文標題 Social Protest and Policy Attitudes: The Case of the 2006 Immigrant Rallies  3.雑誌名  6	2015年 . 最初と最後の頁
10.1111/ajps.12159 有 オープンアクセス 国際共著	Regina Branton, Tony E. Carey Jr., Valerie Martinez-Ebers, and Tetsuya Matsubayashi  2.論文標題 Social Protest and Policy Attitudes: The Case of the 2006 Immigrant Rallies  3.雑誌名  6	2015年 . 最初と最後の頁
10.1111/ajps.12159     有       オープンアクセス     国際共著	Regina Branton, Tony E. Carey Jr., Valerie Martinez-Ebers, and Tetsuya Matsubayashi  2.論文標題 Social Protest and Policy Attitudes: The Case of the 2006 Immigrant Rallies  3.雑誌名  6	2015年 . 最初と最後の頁
オープンアクセス 国際共著	Regina Branton, Tony E. Carey Jr., Valerie Martinez-Ebers, and Tetsuya Matsubayashi  2.論文標題 Social Protest and Policy Attitudes: The Case of the 2006 Immigrant Rallies  3.雑誌名 American Journal of Political Science	2015年 . 最初と最後の頁 390-402
オープンアクセス 国際共著	Regina Branton, Tony E. Carey Jr., Valerie Martinez-Ebers, and Tetsuya Matsubayashi  2.論文標題 Social Protest and Policy Attitudes: The Case of the 2006 Immigrant Rallies  3.雑誌名 American Journal of Political Science  掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子)	2015年 . 最初と最後の頁 390-402 読の有無
	Regina Branton, Tony E. Carey Jr., Valerie Martinez-Ebers, and Tetsuya Matsubayashi  2.論文標題 Social Protest and Policy Attitudes: The Case of the 2006 Immigrant Rallies  3.雑誌名 American Journal of Political Science  掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子)	2015年 . 最初と最後の頁 390-402 読の有無
	Regina Branton, Tony E. Carey Jr., Valerie Martinez-Ebers, and Tetsuya Matsubayashi  2.論文標題 Social Protest and Policy Attitudes: The Case of the 2006 Immigrant Rallies  3.雑誌名 American Journal of Political Science  掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子)	2015年 . 最初と最後の頁 390-402 読の有無
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが闲難 当まり りょうしょ ちょうしょ ちょうしょ はいしょ はいしょ はいしょ はんしょ はいしょ はいしょ はいしょ はんしょう しゅうしょう アンフィ しゅうしょう しゅうしゅう しゅうしゃ しゅうしゃく しゃくりん しゅうしゅう しゅう しゅうしゃ しゅうしゃく しゅう	Regina Branton, Tony E. Carey Jr., Valerie Martinez-Ebers, and Tetsuya Matsubayashi  2.論文標題 Social Protest and Policy Attitudes: The Case of the 2006 Immigrant Rallies  3.雑誌名 American Journal of Political Science  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/ajps.12159	2015年 . 最初と最後の頁 390-402 読の有無 有
	Regina Branton, Tony E. Carey Jr., Valerie Martinez-Ebers, and Tetsuya Matsubayashi  2.論文標題 Social Protest and Policy Attitudes: The Case of the 2006 Immigrant Rallies  3.雑誌名 American Journal of Political Science  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/ajps.12159	2015年 . 最初と最後の頁 390-402 読の有無 有

1.著者名 松林哲也	4.巻 57
2.論文標題 世論調査の回答率と投票率の推定誤差	5 . 発行年 2015年
3.雑誌名 レヴァイアサン	6.最初と最後の頁 96-117
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著
1 . 著者名	4 . 巻

│ 1.著者名	4.巻
	_
三村憲弘	2015(1)
2.論文標題	5 . 発行年
他者への支援を動機づける同情と憐れみ:サーベイ実験による道徳的直観の検証	2015年
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
11.11.11	
年報政治学	61-89
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
なし	<b>#</b>
4 U	無
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	
オーランテラとへ こはない、 又はオーランテラ と人が凶難	-

# 〔学会発表〕 計29件(うち招待講演 1件/うち国際学会 13件)

1.発表者名

Masaki Hata, Takeshi Iida, Yasuhiro Izumikawa, and Tongfi Kim

2 . 発表標題

Does a Patron State's Hardline Posture Reassure the Public in an Allied State?: Evidence from a Pre-designed Natural Experiment

3 . 学会等名

Australian Society for Quantitative Political Science (国際学会)

4.発表年

2019年

1.発表者名

飯田健・池田謙一・西澤由隆・松林哲也

2 . 発表標題

図抽出による確率標本に対するネット調査:誰が調査に協力するのか

3.学会等名

第9回世論・選挙調査研究大会

4 . 発表年

2019年

1 . 発表者名 Takeshi Iida, Jaehyun Song, Jesus Tovar, and Yuriko Takahashi
2 . 発表標題 Buying Votes across Borders?: A Survey Experiment on Mexican Immigrants in the US.
3 . 学会等名 American Political Science Association(国際学会)
4 . 発表年 2019年
1.発表者名 Takeshi lida
2 . 発表標題 The Alliance Dilemma in the Public Mind: A Survey Experiment in Japan
3 . 学会等名 International Political Science Association(国際学会)
4 . 発表年 2018年
1 . 発表者名 飯田 健
2 . 発表標題 京都市における共産党の支持基盤
3 . 学会等名 第3回東アジア日本研究者協議会国際学術大会(国際学会)
4 . 発表年 2018年
1.発表者名 Takeshi lida
2 . 発表標題 Reference to Great Presidents and Support for Populist Claims in the U.S.
3 . 学会等名 Southern Political Science Association (国際学会)
4.発表年 2019年

1.発表者名 松林哲也
2.発表標題 社会構造の変化と有権者の投票選択
3 . 学会等名 日本政治学会研究大会
4 . 発表年
2018年
1 . 発表者名 三村憲弘・深谷健
2.発表標題 「模擬選挙」実験で検証する投票制度のメカニズム:大学と行政との連携プロジェクトを通じて
3 . 学会等名 日本政治学会研究大会
4.発表年
2018年
1.発表者名 飯田健
2 . 発表標題 2016年参院選における護憲派による改憲勢力への投票
3 . 学会等名 日本選挙学会
4 改丰仁
4 . 発表年 2017年
1
1 . 発表者名 飯田健
2 . 発表標題 所得格差は再分配への支持を高めるか:国家間のマルチレベル分析
3.学会等名 日本比較政治学会
4.発表年 2017年
<b>∠</b> ∀11 ⊤

1. 発表者名
飯田健
2 . 発表標題
アメリカン・クリードとしてのポピュリズム
3. 学会等名
日本政治学会
4. 発表年
2017年
1.発表者名
Takeshi lida
rakeom Trad
2.発表標題
The Alliance Dilemma in the Public Mind: A Survey Experiment in Japan
3 . 学会等名
Asian Electoral Studies Conference(国際学会)
4.発表年
4 .
2010年
1 . 発表者名
Takeshi Iida
2.発表標題
The Alliance Dilemma in the Public Mind: A Survey Experiment in Japan
The Attraction of the Fabric limits. A currey Experiment in capali
3. 学会等名
Southern Political Association(国際学会)
4.発表年
2018年
1. 発表者名
Tetsuya Matsubayashi and Shiro Sakaiya
2.発表標題
Income Inequality and Income Bias in Voter Turnout
2
3.学会等名
American Political Science Association
4.発表年
2018年

1 . 発表者名 三村憲弘・深谷健
2 . 発表標題 フィールド実験で検証する高校生の投票参加: 大学と行政との連携プロジェクトを通じて
フィールド美級も検証する同伙主の技宗参加、人子と11以この建務プロジェッドを通じて 
3.学会等名
日本政治学会 
4 . 発表年 2017年
2017年
1.発表者名
深谷健・三村憲弘 
2 . 発表標題
実験手法を用いた大学と行政との選挙連携プロジェクト
3.学会等名
日本選挙学会
4 . 発表年
2017年
1. 発表者名
遠藤晶久・三村憲弘・山﨑新
2 . 発表標題
イデオロギーの社会的アイデンティティ: 新たな測定の提案
3.学会等名
日本選挙学会
4.発表年
2017年
1.発表者名
飯田健
2.発表標題
政党の争点立場認知と投票後悔:2016年参院選における「改憲勢力3分の2」
3.学会等名
日本政治学会
4.発表年
2016年

1.発表者名 Takeshi lida
2.発表標題 Awareness of Party Issue Differences and Regret on Vote: Evidence from a Survey Experiment in Japan.
3.学会等名 Asian Electoral Studies Conference(招待講演)(国際学会)
4 . 発表年 2016年
1.発表者名 Takeshi lida
2. 発表標題 Awareness of Party Issue Differences and Regret on Vote: Evidence from a Survey Experiment in Japan
3.学会等名 Southern Political Science Association (国際学会)
4 . 発表年 2017年
1.発表者名 西澤由隆
2.発表標題 世論調査による政治的格差の時系列的分析
3.学会等名 日本政治学会
4 . 発表年 2016年
1.発表者名 松林哲也
2. 発表標題 Voter turnout, election outcomes, and policy
3.学会等名 日本政治学会
4 . 発表年 2016年

1 . 発表者名 三村憲弘・遠藤晶久・山﨑新
2 . 発表標題 熟議の政治的メカニズム: 党派性・知識・イデオロギー
3.学会等名 日本政治学会
4 . 発表年 2016年
1 . 発表者名 Masahisa Endo, Arata Yamazaki, and Norihiro Mimura
2 . 発表標題 How Do Political Knowledge and Partisanship Mediate the Effect of Political Discussion on Opinion Change?: An Experimental Study
3 . 学会等名 International Political Science Association(国際学会)
4 . 発表年 2016年
1.発表者名 飯田健
2 . 発表標題 2008年大統領選挙における「ペロー」への投票
3 . 学会等名 アメリカ学会
4 . 発表年 2015年
1 . 発表者名 飯田健
2.発表標題 Surging Progressives in the Conservative Mood: The Conditional Effects of Income and Urbanism on Vote Choice in the 2014 Japanese Lower House Election
3.学会等名 日本政治学会
4.発表年 2015年

1.発表者名 Takeshi lida		
. 発表標題 Surging Progressives in the Conservative Mood: The Conditional Effects of Income and Urbanism on Vote Choice in the 2014 Japanese Lower House Election		
0. WAME		
3 . 学会等名 Asian Electoral Studies Conference(国際学会)		
4 . 発表年 2015年		
1.発表者名 Takeshi lida		
2. 発表標題 Surging Progressives in the Conservative Mood: The Conditional Effects of Income and Urbanism of Japanese Lower House Election	on Vote Choice in the 2014	
2 24 4 15 15 15 15 15 15 15 15 15 15 15 15 15		
3 . 学会等名 Southern Political Science Association(国際学会)		
4 . 発表年 2016年		
1 . 発表者名 Masahisa Endo, Norihiro Mimura, and Arata Yamazaki		
2. 発表標題 Political Mechanisms of Deliberations with Ideology and Party Identification?: An Experimental	Study	
3 . 学会等名 Southern Political Science Association(国際学会)		
4 . 発表年 2016年		
[図書] 計4件	A 36/-/-	
1.著者名 飯田健	4 . 発行年 2016年	
2. 出版社 木鐸社	5 . 総ページ数 185	
3 . 書名 有権者のリスク態度と投票行動		

1. 著者名 Masaru Kohno and Yoshitaka Nishizawa	4 . 発行年 2016年
2.出版社 Rout ledge	5 . 総ページ数 <sup>134</sup>
3.書名 Electoral Survey Methodology: Insight from Japan on Using Computer Assisted Personal Interviews	
1.著者名 趙眞晩・飯田健	4 . 発行年 2015年
2. 出版社 慶應義塾大学出版会	5.総ページ数 186(うち111-151)
3.書名 「日韓比較を通じた選挙制度の政治的影響の検証:経路依存・代表性・政治意識」康元澤・浅羽祐樹・高 選圭編著『日韓政治制度比較』	
1.著者名 飯田健・松林哲也・大村華子	4 . 発行年 2015年
2.出版社有斐閣	5 . 総ページ数 <sup>198</sup>
3.書名 政治行動論:有権者は政治を変えられるのか	
〔産業財産権〕	
〔その他〕	
-	

6.研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
	西澤 由隆	同志社大学・法学部・教授	
3	研究分 (Nishizawa Yoshitaka) 担担者		
	(40218152)	(34310)	
r	松林 哲也	大阪大学・国際公共政策研究科・准教授	
1	研究 分 (Matsubayashi Tetsuya) 担 者		
	(40721949)	(14401)	

## 6.研究組織(つづき)

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
	三村 憲弘	武蔵野大学・法学部・准教授	
研究分担者	(Mimura Norihiro)		
	(40453980)	(32680)	